

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 7 月 7 日

評価対象事業	都調 - 03	歴史的遺産と共生するまちづくり推進事業	☐ 法定受託事務
所管課	都市調整部 都市景観課	評価者	都市景観課長 奥山 信治
一般	会計	款 10	項 5
目 25			
総合計画上の位置付け	分野名	歴史的遺産と共生するまちづくり	施策の方針名 歴史的遺産と共生するまちづくり

1 事業の目的

対象	鎌倉の歴史的風致	意図	歴史的遺産と共生するまちづくりの視点に立った計画に基づき、事業を着実に推進するため
効果	鎌倉市歴史的風致維持向上計画に基づく事業を実施することにより、歴史的遺産と共生するまちの実現が図られる		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	歴史的風致維持向上計画（第2期）改定に向けた手続及び個別計画の進行管理・評価	歴史的風致維持向上計画（第2期）改定に向けた手続及び個別計画の進行管理・評価	個別計画の進行管理・評価
予算額（千円）	10,132	4,754	
国県支出金		3,960	
地方債			
その他	3	3	
一般財源	10,129	791	0
当初人員配置数	1.0	1.0	0.0
人件費（千円）	8,537	8,826	0
事業実績	歴史的風致維持向上計画（第2期）改定に向けた手続及び個別計画の進行管理・評価		
決算額（千円）	358		
国県支出金			
地方債			
その他	3		
一般財源	355	0	0
人員配置実績数	1.0	0.0	0.0
人件費（千円）	8,283	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名	歴史的風致形成建造物の指定候補数	件	9	7	9		
活1	実績につながる活動	歴史的風致形成建造物の指定候補増に繋がる第2期計画改定に向け歴史的風致維持向上計画協議会等を行った。				209		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	歴史的風致形成建造物の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	歴史的風致形成建造物の指定候補にすることで、歴史的風致を形成する建造物の保存活用に向けた準備を行うことができた。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	歴史的風致形成建造物の指定件数	件	5	7	5			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	歴史的遺産と共生するまちづくりを進めることで、市民が鎌倉のまち並みに歴史・文化を感じることができている。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	歴史的風致形成建造物に指定し、適切に保存活用を行うことで、鎌倉の歴史・文化を形成する建造物の魅力を伝えることができた。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出していない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
		関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性	公平性	受益者負担	☐ 導入済	☐ 導入予定	☒ 導入できない
		評価実施年度の方向性 ⇒	評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☒ ① 予算規模は現状維持とする ☐ ② 予算規模は拡大する ☐ ③ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	歴史的遺産と共生するまちづくりの視点に立った歴史的風致維持向上計画（第2期）を策定することで、事業を着実することができるため、引き続き歴史的風致形成建造物の指定を増やしていく必要がある。			上位施策への寄与度 B

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	歴史的風致維持向上計画を策定している自治体								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	○				○				

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	神奈川県内で歴史的風致維持向上計画を策定し、歴史まちづくりを推進する自治体は本市と小田原市、横浜市のみである。日本を代表する古都である本市では、「歴史的遺産と共生するまちづくり」を推進するため、歴史的風致を維持向上させる計画の実現に着実に取り組んでいく必要がある。
----------------------	--